

# 序文

薬学教育モデル・コアカリキュラム（平成25年度改訂版）では、6年卒業時に必要とされる資質の中に、「薬物療法における実践的能力」と「地域の保健・医療における実践的能力」を挙げている。すなわち、安全で有効な医薬品使用を推進するための薬学的管理を実践する能力と、地域における人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献する能力を身につけることが求められており、これらの能力に直結する修得すべき基本事項が「E2薬理・病態・薬物治療」として器官別に提示されている。

本書は、《臨床薬学テキストシリーズ》の[薬理・病態・薬物治療]の各論を構成する一冊であり、消化器、眼、耳鼻咽喉、皮膚、生殖器・産婦人科の5つの領域について、上記E2に該当する内容を解説している。各章では、まず総論でそれぞれの器官の構造と機能について図表を駆使して説明し、疾患と治療の概要を整理し、治療に用いられる医薬品の全体像を示した後に、疾患各論で、疾患別に具体的な病態、疫学、診断基準、検査方法、治療法、治療薬を詳述した。とくに各論では、消化性潰瘍、痔核、結膜炎、中耳炎といった日常頻繁に接するコモンディジーズから、潰瘍性大腸炎、クローン病、網膜色素変性症、中毒性表皮壊死症といった指定難病まで多岐にわたる疾患を取り上げ、読者の理解を助けるために多数の臨床写真をカラーで掲載して解説している。

1970年代のSir J.W. Blackによるシメチジンの開発は、胃・十二指腸潰瘍の治療を外科医から内科医の手に委ねることとなった。さらに、J.R. WarrenとB.J. Marshallによる*Helicobacter pylori*の発見は、胃酸分泌の抑制から*pylori*の除菌へと治療戦略の転換を促した。最近では、直接作用型抗ウイルス薬(DAA)の開発によりC型慢性肝炎の治療成績が劇的に改善している。このように、医学・薬学の進歩に伴い、医療の現場はダイナミックに変容していき、常に最新の知見が求められる。本書では、各疾患に対する現時点での最新のガイドラインと、近年導入された新薬を盛り込んだ薬物療法が示されている。本書で学んだ各疾患の知識を基盤として、常に最善の医療を提供できるよう、知識・技能・態度の研鑽を生涯にわたって続けていただきたい。

医療現場において、薬剤師はジェネラリストとして多種多様な患者の薬物療法に対応しなければならぬ。薬学生諸君が、本書を通して患者に適切に対応するために必要な基礎知識を修得し、病棟や地域の薬局で自信を持ってチーム医療に参画できる薬剤師へと成長することを期待している。

おわりに、たいへんご多忙のなか、5領域の疾患を分担してご執筆いただいた薬学と臨床医学の先生方、薬学・医学の両分野での豊富な教育研究経験に基づき本書の企画から編集まで丁寧にご指導賜ったゲスト編集者の木内祐二教授と服部尚樹教授に、心よりお礼申し上げます。

2020年4月

安原真人

# CONTENTS

## 第1章 消化器疾患

### A 総論

① 修得すべき知識の概要	永田将司	2
② 消化器の構造と機能	永田将司, 岩井信市	4
1 消化器系の構成		4
2 消化器系の神経支配		4
3 消化管壁の構造		4
4 三大栄養素の消化過程		5
5 食道		5
5.1 構造		5
5.2 機能		7
6 胃		7
6.1 構造		7
6.2 機能		8
7 小腸		8
7.1 構造		8
7.2 機能		9
8 大腸		9
8.1 構造		9
8.2 機能		9
9 肝臓		9
9.1 構造		9
9.2 機能		11
10 胆嚢		11
10.1 構造		11
10.2 機能		11
11 膵臓		12
11.1 構造		12
11.2 機能		12
③ 消化器疾患と治療の概要	向後麻里, 長堀正和	13
1 胃食道逆流症		13
2 消化性潰瘍(胃・十二指腸潰瘍)		13
3 胃炎(急性・慢性)		13
4 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎, クローン病)		14
5 急性虫垂炎		14
6 機能的消化管障害		14
7 痔核		15
8 薬剤性腸炎		15
9 肝炎(急性・慢性)		15
10 肝硬変		16
11 薬物性肝障害		16
12 膵炎(急性・慢性)		16
13 胆石症		17
14 胆道炎(胆嚢炎, 胆管炎)		17
④ 消化器疾患の治療薬の概要	向後麻里, 長堀正和	18
1 胃食道逆流症		18
2 消化性潰瘍		19

3 胃炎	20	8 肝炎	25
4 炎症性腸疾患	20	9 肝硬変	27
5 機能性消化管障害	21	10 膵炎	28
6 下痢	22	11 胆石症	28
7 便秘	23		

## B 疾患各論

### ① 胃食道逆流症 永田将司, 岩井信市 29

1 胃食道逆流症 (GERD) とは	29	4 検査・診断	30
2 疫学	29	5 治療方針	31
3 分類	30	6 治療薬	31

### ② 消化性潰瘍 (胃・十二指腸潰瘍) 永田将司, 岩井信市 34

1 消化性潰瘍とは	34	4 治療方針	36
2 疫学・分類	34	5 治療薬	36
3 検査・診断	35		

### ③ 胃炎 (急性・慢性) 永田将司, 岩井信市 40

1 胃炎とは	40	4 治療方針	41
2 疫学・分類	40	5 治療薬	41
3 検査・診断	41		

### ④ 炎症性腸疾患 43

#### 1) 潰瘍性大腸炎 永田将司, 長堀正和 43

1 潰瘍性大腸炎とは	43	3 治療方針	44
2 分類・検査・診断	43	4 治療薬	45

#### 2) クローン病 永田将司, 長堀正和 50

1 クローン病とは	50	3 治療方針	52
2 分類・診断	50	4 治療薬	52

### ⑤ 急性虫垂炎 永田将司, 長堀正和 55

1 急性虫垂炎とは	55	3 症状・検査	55
2 疫学	55	4 治療方針	55

### ⑥ 機能性消化管障害 永田将司, 長堀正和 57

1 機能性消化管障害とは	57	2 疫学・分類	58
--------------	----	---------	----

2.1 機能性ディスぺプシア (FD) .....	58	4.1 機能性ディスぺプシア (FD) .....	59
2.2 過敏性腸症候群 (IBS) .....	58	4.2 過敏性腸症候群 (IBS) .....	59
<b>3 検査</b> .....	59	<b>5 治療薬</b> .....	61
3.1 機能性ディスぺプシア (FD) .....	59	5.1 機能性ディスぺプシア (FD) .....	61
3.2 過敏性腸症候群 (IBS) .....	59	4.2 過敏性腸症候群 (IBS) .....	61
<b>4 治療方針</b> .....	59		

## 7 痔核 永田将司, 長堀正和 63

<b>1 痔核とは</b> <small>じかく</small> .....	63	<b>3 症状・分類</b> .....	63
<b>2 疫学</b> .....	63	<b>4 治療方針</b> .....	63

## 8 薬剤性腸炎 永田将司, 長堀正和 65

<b>1 薬剤性腸炎とは</b> .....	65	<b>4 治療方針</b> .....	66
<b>2 疫学・分類・症状</b> .....	65	<b>5 治療薬</b> .....	66
<b>3 検査・診断</b> .....	66	<b>6 その他の薬剤性腸炎</b> .....	67

## 9 腸重積, 腸閉塞 (イレウス) 永田将司, 長堀正和 68

<b>1 原因・症状</b> .....	68	<b>2 治療方針</b> .....	68
----------------------	----	---------------------	----

## 10 その他の腸炎 (血管性疾患など) 永田将司, 長堀正和 69

<b>1 虚血性大腸炎</b> .....	69	<b>2 急性腸間膜動脈閉塞症</b> .....	69
-----------------------	----	---------------------------	----

## 11 肝炎 向後麻里, 吉田 仁 70

<b>1 肝炎総論</b> .....	70	<b>3 慢性肝炎</b> .....	73
1.1 肝炎とは .....	70	3.1 慢性肝炎とは .....	73
1.2 原因 .....	70	3.2 疫学・成因 .....	73
<b>2 急性肝炎</b> .....	71	3.3 ゲノタイプ (遺伝子型) による分類 .....	74
2.1 急性肝炎とは .....	71	3.4 検査 .....	74
2.2 分類・疫学・成因 .....	71	3.5 治療方針 .....	75
2.3 症状・検査 .....	72	<b>4 治療薬</b> .....	78
2.4 治療方針 .....	72		

## Mini Lecture 脂肪肝 向後麻里, 吉田 仁 84

## 12 肝硬変 (ウイルス性を含む) 向後麻里, 吉田 仁 85

<b>1 肝硬変とは</b> .....	85	<b>4 合併症</b> .....	86
<b>2 疫学</b> .....	85	<b>5 重症度判定</b> .....	87
<b>3 検査</b> .....	86	<b>6 治療方針</b> .....	88

<b>7</b> 治療薬	88	<b>7.2</b> 合併症	90
7.1 ウイルス性肝硬変	88		

## 13 薬物性肝障害 向後麻里, 吉田 仁 93

<b>1</b> 薬物性肝障害とは	93	<b>4</b> 検査	95
<b>2</b> 分類	93	<b>5</b> 治療方針	95
<b>3</b> 疫学	94	<b>6</b> 治療薬	97

## 14 膵炎 (急性・慢性) 向後麻里, 吉田 仁 98

<b>1</b> 急性膵炎	98	<b>2</b> 慢性膵炎	101
1.1 急性膵炎とは	98	2.1 慢性膵炎とは	101
1.2 疫学	98	2.2 疫学	101
1.3 症状・検査	99	2.3 分類	102
1.4 分類	99	2.4 症状・検査	102
1.5 治療方針	100	2.5 治療方針	102
1.6 治療薬	100	2.6 治療薬	102

## 15 胆石症 永田将司, 長堀正和 105

<b>1</b> 胆石症とは	105	<b>3</b> 症状・検査	105
<b>2</b> 疫学	105	<b>4</b> 治療方針	105

## 16 胆道炎 (胆嚢炎, 胆管炎) 永田将司, 長堀正和 107

<b>1</b> 急性胆嚢炎	107	<b>2</b> 急性胆管炎	107
----------------	-----	----------------	-----

# 第2章 眼疾患

## A 総論

### 1 修得すべき知識の概要 橋本光正 110

### 2 眼の構造と機能 橋本光正, 横井多恵, 大野京子 112

<b>1</b> 眼球	112	1.5 硝子体	115
1.1 角膜・強膜	113	<b>2</b> 眼付属器	116
1.2 ぶどう膜	113	2.1 眼瞼・結膜	116
1.3 網膜	114	2.2 眼窩	116
1.4 水晶体	114		

## B 疾患各論

<b>① 緑内障</b>		橋本光正, 吉田武史, 大野京子 117	
<b>1</b> 緑内障とは	117	<b>5.3</b> 正常眼圧緑内障	121
<b>2</b> 疫学	118	<b>5.4</b> 原発閉塞隅角緑内障	121
<b>3</b> 分類・症状	118	<b>5.5</b> 続発性緑内障	122
<b>4</b> 検査	119	<b>6</b> 治療薬	122
4.1 眼圧検査	119	6.1 交感神経刺激薬	123
4.2 細隙灯顕微鏡検査	120	6.2 交感神経遮断薬	123
4.3 隅角検査	120	6.3 副交感神経刺激薬	125
4.4 眼底検査	120	6.4 プロスタグランジン関連薬	125
4.5 視野検査	120	6.5 炭酸脱水酵素阻害薬	125
<b>5</b> 治療方針	121	6.6 高張浸透圧薬	126
5.1 治療の基本	121	6.7 Rhoキナーゼ阻害薬 (ROCK阻害薬)	126
5.2 原発開放隅角緑内障	121	6.8 配合点眼薬	126
<b>② 白内障</b>		橋本光正, 長岡奈都子, 大野京子 127	
<b>1</b> 白内障とは	127	<b>3.5</b> 放射線白内障	129
<b>2</b> 疫学	127	<b>4</b> 検査	129
<b>3</b> 分類・症状	128	<b>5</b> 治療方針	129
3.1 加齢性白内障 (老人性白内障)	128	5.1 経過観察・薬物療法	129
3.2 併発白内障	128	5.2 手術療法	129
3.3 外傷性白内障	128	<b>6</b> 治療薬	130
3.4 ステロイド白内障	129		
<b>③ 眼感染症</b>		橋本光正, 諸星 計, 大野京子 131	
<b>1</b> 眼感染症とは	131	<b>4.2</b> 感染性結膜炎	135
<b>2</b> 分類・症状	131	<b>5</b> 治療方針	135
2.1 感染性角膜炎	131	5.1 感染性角膜炎	135
2.2 感染性結膜炎	133	5.2 感染性結膜炎	136
<b>3</b> 疫学	134	<b>6</b> 治療薬	136
3.1 感染性角膜炎	134	6.1 抗菌薬	136
3.2 感染性結膜炎	134	6.2 抗真菌薬	138
<b>4</b> 検査	134	6.3 抗ウイルス薬	138
4.1 感染性角膜炎	134		
<b>④ アレルギー性結膜炎</b>		橋本光正, 鴨居功樹, 大野京子 139	
<b>1</b> アレルギー性結膜炎とは	139	<b>2</b> 疫学・症状	139

<b>3</b> 分類	140
3.1 アレルギー性結膜炎	140
3.2 アトピー性角結膜炎	141
3.3 春季カタル	141
3.4 巨大乳頭結膜炎	141
<b>4</b> 検査	142
4.1 結膜の検査	142
4.2 全身の検査	142
<b>5</b> 治療方針	143
5.1 治療の基本	143

5.2 難治性重症アレルギー性結膜疾患の治療	143
5.3 巨大乳頭結膜炎の治療	143
<b>6</b> 予防	143
<b>7</b> 治療薬	144
7.1 化学伝達物質遊離抑制薬	144
7.2 ヒスタミンH <sub>1</sub> 受容体遮断薬	145
7.3 副腎皮質ステロイド	145
7.4 免疫抑制薬	145
7.5 その他	145

## 5 加齢黄斑変性 橋本光正, 石田友香, 大野京子 146

<b>1</b> 加齢黄斑変性とは	146
<b>2</b> 疫学	146
<b>3</b> 分類・症状	146
<b>4</b> 検査	146
4.1 眼底検査	147

4.2 蛍光眼底造影検査	147
4.3 光干渉断層計 (OCT) を用いた検査	148
<b>5</b> 治療方針	148
<b>6</b> 治療薬	148

## 6 糖尿病網膜症 橋本光正, 堀江真太郎, 大野京子 150

<b>1</b> 糖尿病網膜症とは	150
<b>2</b> 疫学	150
<b>3</b> 分類・症状	150
<b>4</b> 検査	151
<b>5</b> 治療方針	152
5.1 網膜光凝固	152

5.2 硝子体手術	152
5.3 薬物療法	152
<b>6</b> 治療薬	153
6.1 抗VEGF薬	153
6.2 副腎皮質ステロイド	153

## 7 ぶどう膜炎 橋本光正, 高瀬 博, 大野京子 154

<b>1</b> 疫学	154
<b>2</b> 症状・分類	154
<b>3</b> 検査	155

<b>4</b> 治療方針	155
<b>5</b> 治療薬	156

## 8 網膜色素変性症 橋本光正, 篠原宏成, 大野京子 157

<b>1</b> 疫学	157
<b>2</b> 分類・症状	157
<b>3</b> 検査	157

<b>4</b> 治療方針	159
<b>5</b> 治療薬	159

## 第3章 耳鼻咽喉科疾患

### A 総論

① 修得すべき知識の概要	橋本光正	162
② 耳, 鼻, 咽頭・喉頭の構造と機能	橋本光正, 榎橋幸民, 小林一女	164
1 耳		164
2 鼻		167
3 咽頭・喉頭		168

### B 疾患各論

① 中耳炎	橋本光正, 小林一女	170
1 中耳炎とは		170
2 疫学		170
3 症状・分類		171
4 検査		171
5 治療方針		172
6 治療薬		173
② めまい	橋本光正, 小林一女	176
1 めまいとは		176
2 疫学		177
3 分類・症状		177
4 検査		180
5 治療方針		181
6 治療薬		182
③ 難聴	橋本光正, 江川峻哉, 小林一女	184
1 難聴とは		184
2 分類		184
3 検査		186
4 治療方針		187
④ アレルギー性鼻炎・花粉症	橋本光正, 平野康次郎, 小林一女	188
1 アレルギー性鼻炎・花粉症とは		188
2 疫学		188
3 分類		189
4 検査		190
5 治療方針		190
6 治療薬		192
⑤ 副鼻腔炎	橋本光正, 藤居直和, 小林一女	196
1 副鼻腔炎とは		196
2 疫学		196
3 分類・症状		196
3.1 急性副鼻腔炎		196
3.2 慢性副鼻腔炎		196
4 検査		197
5 治療方針		198
5.1 急性副鼻腔炎		198
5.2 慢性副鼻腔炎		198
6 治療薬		200

**6 口内炎・咽頭炎・扁桃炎** 橋本光正, 池田賢一郎, 小林一女 201

1 口内炎・咽頭炎・扁桃炎とは	201	3 検査	202
2 分類・症状	201	4 治療方針	202
2.1 口内炎	201	5 治療薬	204
2.2 咽頭炎・扁桃炎	201		

**7 顔面神経麻痺** 橋本光正, 池田賢一郎, 小林一女 206

1 顔面神経麻痺とは	206	4 治療方針	207
2 分類・症状	206	5 治療薬	207
3 検査	207		

**第4章 皮膚疾患**

**A 総論**

**1 修得すべき知識の概要** 野田哲史, 寺田智祐 210

**2 皮膚の構造と機能** 野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 211

1 表皮	211	3 皮下組織	213
2 真皮	212		

**3 皮膚疾患の治療薬の概要** 野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 214

1 ステロイド	214	6 免疫抑制薬	218
2 抗ヒスタミン薬, 抗アレルギー薬	214	7 レチノイド	219
3 抗菌薬	216	8 活性型ビタミンD <sub>3</sub> 製剤	219
4 抗真菌薬	216	9 生物学的製剤	219
5 抗ウイルス薬	217		

**B 疾患各論**

**1 アトピー性皮膚炎** 野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 221

1 アトピー性皮膚炎とは	221	5 合併症	222
2 症状	221	6 治療方針	223
3 診断	222	7 治療薬	224
4 重症度	222	8 生活指導	226

**2 接触皮膚炎** 野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 228

1 接触皮膚炎とは	228	2 分類	228
-----------	-----	------	-----

<b>3</b> 病態	228	<b>6</b> 患者のリスク因子	230
<b>4</b> 症状	229	<b>7</b> 診断	230
<b>5</b> 原因	230	<b>8</b> 治療法	230

### 3 蕁麻疹 野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 233

<b>1</b> 蕁麻疹とは	233	<b>4</b> 病型	234
<b>2</b> 病態・症状	233	<b>5</b> 治療	235
<b>3</b> 検査	234		

### 4 薬疹(スティーブンス・ジョンソン症候群, 中毒性表皮壊死症を含む) 野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 236

<b>1</b> スティーブンス・ジョンソン症候群(SJS)	236	<b>2</b> 中毒性表皮壊死症(TEN)	236
		<b>3</b> 薬剤性過敏症症候群(DIHS)	238

### 5 分子標的薬による皮膚障害 野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 241

<b>1</b> 手足症候群(HFS)	241	<b>3</b> 爪囲炎	242
<b>2</b> 痤瘡様皮疹	242		

### 6 光線過敏症 野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 243

<b>1</b> 光線過敏症とは	243	<b>4</b> 診断	243
<b>2</b> 病因・病態	243	<b>5</b> 治療・予防	244
<b>3</b> 症状	243	<b>6</b> 薬物療法	244

### 7 乾癬 野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 245

<b>1</b> 病因・発症機序	245	<b>4</b> QOLの評価・日常生活の注意点	246
<b>2</b> 疫学・病型	245	<b>5</b> 治療	246
<b>3</b> 皮疹の重症度の評価	246		

### 8 水疱症 野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 247

<b>1</b> 水疱症とは	247	<b>4</b> 検査	249
<b>2</b> 分類	247	<b>5</b> 治療	249
<b>2.1</b> 先天性水疱症	247	<b>5.1</b> 先天性水疱症	249
<b>2.2</b> 後天性水疱症(自己免疫性水疱症)	247	<b>5.2</b> 後天性水疱症	249
<b>3</b> 疫学	249		

### 9 尋常性白斑 野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 250

<b>1</b> 尋常性白斑とは	250	<b>3</b> 治療	250
<b>2</b> 分類・病型・重症度	250		

## 10 皮膚真菌症

野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 252

- 1 白癬 ..... 252
- 2 皮膚カンジダ症 ..... 253
- 3 マラセチア感染症 ..... 253

## 11 皮膚ウイルス感染症

野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 255

- 1 疣贅 ..... 255
- 2 単純ヘルペス ..... 255
- 3 水痘 ..... 256
- 4 帯状疱疹 ..... 257

## 12 皮膚細菌感染症 (蜂窩織炎, 伝染性膿痂疹, 丹毒など)

野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 259

- 1 蜂窩織炎 ..... 259
- 2 伝染性膿痂疹 ..... 260
- 3 丹毒 ..... 260
- 4 癰 ..... 261
- 5 毛囊炎 (毛包炎) ..... 261

## 13 褥瘡

野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 262

- 1 褥瘡とは ..... 262
- 2 病因・発症機序 ..... 262
- 3 好発部位 ..... 262
- 4 リスク要因 ..... 262
- 5 症状・重症度と評価 ..... 262
- 6 治療 ..... 264

## 14 脱毛症

野田哲史, 寺田智祐, 横関博雄 266

- 1 円形脱毛症 ..... 266
- 2 男性型脱毛症 ..... 267

# 第5章 生殖器・産婦人科疾患

## A 総論

### 1 修得すべき知識の概要

森田真樹子, 矢野育子 270

### 2 生殖器系の構造と機能

森田真樹子, 矢野育子, 宮坂尚幸 272

- 1 女性生殖器 ..... 272
- 2 男性生殖器 ..... 273
- 3 性ホルモン ..... 274
- 4 受精のメカニズム ..... 274
- 5 子宮内胎児について ..... 275

### 3 妊娠・分娩・避妊に関する薬物

森田真樹子, 矢野育子, 宮坂尚幸 277

- 1 切迫早産治療薬 ..... 277
- 2 妊娠中の合併症治療薬 ..... 277
- 3 分娩中・後に使用する薬物 ..... 278
- 4 避妊薬 ..... 279
- 4.1 経口避妊薬 (OC) ..... 279
- 4.2 子宮内黄体ホルモン放出システム (IUS) ..... 279
- 4.3 緊急避妊薬 ..... 279
- 5 薬物服用と胎児への影響 ..... 280

## B 疾患各論

<b>① 月経異常</b>		清水倫子, 矢野育子, 宮坂尚幸 282	
<b>1</b> 月経異常とは	282	<b>3</b> 無月経の治療	284
1.1 機能性子宮出血	283	3.1 排卵誘発法 (挙児希望のある場合)	284
1.2 月経困難症	283	3.2 ホルモン療法 (挙児希望のない場合や妊娠不可能な場合)	285
1.3 月経前症候群 (PMS)	283		
<b>2</b> 無月経の検査	284		
<b>② 不妊症</b>		清水倫子, 矢野育子, 宮坂尚幸 286	
<b>1</b> 不妊症とは	286	3.1 女性	287
<b>2</b> 原因	286	3.2 男性	288
2.1 女性不妊	286	<b>4</b> 治療	288
2.2 男性不妊	287	4.1 女性不妊	288
2.3 原因不明不妊/機能性不妊	287	4.2 男性不妊	289
<b>3</b> 検査	287	4.3 生殖補助医療 (ART)	289
<b>③ 更年期障害</b>		清水倫子, 矢野育子, 宮坂尚幸 290	
<b>1</b> 更年期障害とは	290	<b>4</b> 治療	291
<b>2</b> 症状	290	4.1 薬物療法	291
<b>3</b> 診断	290	4.2 非薬物療法	292
<b>④ 子宮内膜症</b>		清水倫子, 矢野育子, 宮坂尚幸 293	
<b>1</b> 子宮内膜症とは	293	5.1 対症療法	295
<b>2</b> 疫学・分類	294	5.2 内分泌療法	295
<b>3</b> 検査	294	<b>6</b> 手術療法	298
<b>4</b> 治療方針	294	6.1 保存手術	298
<b>5</b> 治療薬	295	6.2 根治手術	298
<b>⑤ 子宮筋腫</b>		清水倫子, 矢野育子, 宮坂尚幸 299	
<b>1</b> 子宮筋腫とは	299	2.3 検査	300
<b>2</b> 診断・検査	299	<b>3</b> 治療	301
2.1 症状, 問診	299	3.1 薬物療法	301
2.2 内診	299	3.2 手術療法	302
<b>⑥ 異常妊娠</b>		橋本真梨, 矢野育子, 宮坂尚幸 303	
<b>1</b> 妊娠高血圧症候群 (HDP)	303	<b>3</b> 流産	306
<b>2</b> 異所性妊娠	305	<b>4</b> 切迫早産	306

5 常位胎盤早期剥離	307	6 前置胎盤	308
------------	-----	--------	-----

## 7 異常分娩 橋本真梨, 矢野育子, 宮坂尚幸 310

1 異常分娩とは	310	5 子宮復古不全	314
2 陣痛とは	310	6 胎児機能不全 (NRFS)	314
3 前期破水 (PROM)	311	7 羊水塞栓症 (AFE)	315
4 弛緩出血	313		

## 8 性感染症 橋本真梨, 矢野育子, 宮坂尚幸 316

1 梅毒	316	3 淋病	318
2 クラミジア	317		

## 9 母子感染症 橋本真梨, 矢野育子, 宮坂尚幸 319

1 TORCH 症候群	319	2 B 型肝炎ウイルス (HBV)	321
1.1 トキソプラズマ	319	3 C 型肝炎ウイルス (HCV)	321
1.2 風疹	320	4 ヒト免疫不全ウイルス (HIV)	321
1.3 サイトメガロウイルス (CMV)	320	5 ヒト T 細胞白血病ウイルス (HTLV-1)	322
1.4 単純ヘルペスウイルス (HSV)	320		

## 10 乳腺疾患 木内祐二 323

1 乳房・乳腺の構造	323	2.2 乳腺線維腺腫 (fibroadenoma)	324
2 乳腺疾患とは	323	2.3 乳腺症 (mastopathy)	324
2.1 乳腺炎 (mastitis)	323		

## 確認問題 325

索引	330
----	-----

## 第1章 消化器疾患

嚥下の仕組み	7
食道裂孔	7
内因子	7
回盲部	8
腸内細菌叢	9
腸肝循環	11
初回通過効果	11
びらん(糜爛)と潰瘍	14
プロバイオティクス	14
クロストリディオオイデス・ディフィシル(CD) 腸炎	15
AST, ALT	15
ALP, $\gamma$ -GTP	16
胆石症の内科的治療	17
インフュージョンリアクション	20
遅発性過敏症	20
ラモセトロン <sup>®</sup> の女性の用量	22
機能的便秘	23
GER	29
胃酸	29
非心臓性胸痛	29
PPI テスト	30
24時間食道 pH モニタリング	30
24時間食道インピーダンス・pH モニタリング	30
ロサンゼルス分類	30
オンデマンド療法	31
PPI 抵抗性 GERD	31
ヘリコバクターピロリ (H. pylori)	34
消化管穿孔	34
NSAIDs 潰瘍と COX-2 選択的阻害薬	36
ヘリコバクターピロリ (H. pylori) 除菌療法	37
アニサキス症	40
特異性腸炎と非特異性腸炎	43
血球成分除去療法	45
メサラジン製剤	45
インフリキシマブとバイオシミラー	48
クローン病	50

急性腹症	55
ダンピング症候群	58
IBS との合併が多い疾患	58
プラセボ効果	59
プロバイオティクス	59
肛門クッション	63
菌交代現象	65
グルクロン酸転移酵素 (UGT)	67
腸閉塞とイレウス	68
高圧浣腸法	68
腹膜刺激症状	69
ウイルス性肝炎	71
垂直感染	72
水平感染	72
無症候性キャリア	73
セロコンバージョン	73
非活動性キャリア	73
チェーンターミネーター	82
劇症肝炎	83
汎血球減少	86
膠質浸透圧	86
門脈体循環シャント	86
血液脳関門	86
見当識	86
薬剤リンパ球幼若化試験 (DLST)	95
人工肝補助療法	97
血漿交換	97
血液濾過透析	97
血液浄化療法	100
内視鏡的逆行性膵管造影	102
BT-PABA 検査 (PFD 試験)	102
膵性糖尿病	103
腸溶性マイクロスフェア製剤	104
コレステロール結石	105
ビリルビンカルシウム結石	105
黒色石	105
胆石発作	105
胆嚢ドレナージ	106

## 第2章 眼疾患

マーフィー徴候	107
神経網膜	114
毛様体筋の収縮・弛緩	115

涙液	116
多治見スタディ	118
眼圧検査と眼底検査	119
眼圧計の種類	119
UBM と OCT	120
静的視野検査, 動的視野検査	121
霧視・羞明	127
超音波乳化吸引術	130
白内障手術と視力改善	130
SH 酵素	130
不顕性感染	132
カタル性結膜炎	133
クラミジア結膜炎の疫学	133
トラコーマ, 封入体性結膜炎	133
アデノウイルス結膜炎, 咽頭結膜熱	133
感染性角膜炎とコンタクトレンズ	134
ギムザ染色	135
アデノチェック	135
結膜濾胞, 結膜乳頭	139
アレルギー疾患の増加要因	139
点状表層角膜炎	141
カタル	141
ブラッシュサイトロジー法	142
スクラッチエキス	142
フルオロメトロン	145
変視	146
中心暗点	146
軟性ドルーゼン	146
AREDS	148
光線力学的療法	148
レーザー光凝固	149
毛細血管瘤	150
硬性白斑, 軟性白斑, 牽引性網膜剥離	151
テノン嚢下注射	153
サルコイドーシス	154
原田病	154
ベーチェット病	154
飛蚊症	154
網膜色素変性症の遺伝形式	157
光視症	157
求心性視野狭窄	157

網膜電図 (ERG) ..... 158

### 第3章 耳鼻咽喉科疾患

乳突洞と乳突蜂巣	164
鼻前庭	167
鼻音	167
伝音難聴、感音難聴	172
肺炎球菌の検査法	172
肺炎球菌結合型ワクチン	173
β-ラクタマーゼ阻害薬	174
非回転性めまい	177
眼前暗黒感	177
眼振	178
フレンツェル眼鏡	180
純音聴力検査	181
デシベル (dB)	184
難聴レベル	184
騒音性難聴	184
聴性脳幹反応	186
聴性定常反応	186
くしゃみ、鼻閉	188
スギ花粉症の増加	189
鼻鏡	190
アレルギー性鼻炎の手術	191
鼻茸	196
自然口	197
アトピー素因	197
上顎洞排泄機能検査	198
鼻中隔彎曲	200
舌苔	201
ベーチェット病	201
掌蹠膿疱症	202
顔面神経	206
突発性顔面神経麻痺 (ベル麻痺)	207
ラムゼイ・ハント症候群	207
神経興奮性検査	207
誘発筋電図検査	207
シルマー試験	207
電気味覚検査	207

### 第4章 皮膚疾患

finger-tip unit による外用指導	215
外用薬の組成	216
皮疹の特徴	223
プロアクティブ療法	225
タクロリムス外用薬の発がんリスク	225
ハプテン	228
職業性皮膚疾患	228
接触蕁麻疹	228
感作	228
交叉	229
ラテックス・フルーツ症候群	229
係留線維	247
免疫チェックポイント阻害薬の バイオマーカーとしての白斑	250
連圈状	252
KOH 直接鏡検	254
HPV に対する治療	255
ライ症候群	257
高齢者の帯状疱疹	257
悪寒戦慄	260
ASO, ASK	260
創面環境調整	264
女性型脱毛症	267
ダーモスコピー	267

### 第5章 生殖器・産婦人科疾患

月経血の過小、過多の目安	270
妊娠継続の目安	270
子宮平滑筋	272
子宮頸部	272
放出された精子	274
薬剤の精子への影響	274
エストロゲン	274
プロゲステロン	274
胚盤胞	275
妊娠検査薬	275
排卵日	275
OC の種類	279
先天異常の原因	280

胎児治療	281
多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS)	283
ゲスターゲン	284
消退出血	284
無排卵周期症	284
メドロキシプロゲステロン酢酸 エステル (MPA)	285
逆行性射精症	287
染色体検査	288
勃起障害治療薬	289
不定愁訴	291
子宮腺筋症	293
エストロゲン・プロゲステン 配合薬の術前休薬	297
抗リン脂質抗体症候群	304
子癇	304
HELLP 症候群	304
DIC	307
赤血球濃厚液 (RCC)	308
新鮮凍結血漿 (FFP)	308
アンチトロンビン製剤	309
絨毛膜羊膜炎	311
母体体位変換	311
BTB 試験紙法	313
shock index (SI)	313
胎児の肺成熟	313
産褥期	314
悪露	314
STI の定点把握疾患、全例把握 疾患	316
STI の報告数	316
スワブ	317
感染様式	319
TORCH	319
トキシプラズマ	319
HBV	321
HCV	321
HIV 感染者の分娩	321
ジドブジン	321
乳房バジェット病	323
マンモグラフィ	324